

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

自己と他者を大切にできる豊かな感性を育て、確かな学力と主体的に自己実現・社会貢献できる生徒を育む

- 1 豊かでたくましい人間性を育み人権意識を絶えず見つめ直す生徒・教職員の育成
- 2 学びを人生や社会に活かす「学びに向かう力・人間性等」を醸成できる生徒・教職員の育成
- 3 「ともに学び、ともに育つ」教育を推進し、一人ひとりに応じた学びと支援の充実

2 中期的目標

- 1 学びに向かう環境づくりの充実（感染症対策の均衡点を継続し、生徒・教員の1人1台端末を使用し、オンライン活用の適正な学びの保障）
 - (1) 生徒相互にとって安全で安心な『**学びの場**』 《集団での人権意識の育成。気軽に相談できる生徒の居場所等の活用・老朽化施設の修理》
 - ア 基本的なコミュニケーションの取り方と実践を生徒の主体的な行事・体験活動で育成。大阪府総合学科研究発表大会への取組み
 - イ 「新しい生活様式」への対応と個々の状況に応じたヤングケアラー等の支援と連携《時代に応じた諸室の有効活用「新規・改修」》
 - (2) 教職員の意識改革と生徒の健康管理を徹底（働き方改革の取組み→長時間勤務縮減は産業医と協同し対応/在校等時間管理/全校一斉退勤日）
 - ア 生活習慣の確立のため生徒・保護者・教職員との主体的な連携《「学びに向かう力・人間性等」の涵養は行事等を通じ計画》
 - イ 健康教育の充実と体力づくりの推進《感染源・感染経路を絶つことを併せて、行事や体験活動等を含めた学校教育ならではの学びをリスタート》
 - (3) 規範意識の醸成と個々の生徒のニーズに応じた支援体制（生徒に向き合う時間確保…家庭訪問等・定例会議・役割分担の見直しを实践）
 - ア 「規範意識の醸成」に繋がるよう生徒の主体的な対話等を活かし、学校運営協議会の意見を元に、画一的にならないルール等の活用
 - イ 「ともに学び、ともに育つ」教育の推進と「通級指導」の取組み。個々の教育的ニーズに応じ、合理的配慮に向け、生徒等との合意形成
 - ウ 教育相談・人権推進委員会の体制を基本に進路選択支援の充実。ICT活用した教員研修の充実・共有・発展《将来構想への取組み》
- 2 自己肯定感の育成とキャリア教育の充実（自己有用感を生徒に実感してもらうSTEAM教育の取組み、SDGs 関連で持続可能な開発目標への取組み）
 - (1) 生徒会活動や部活動・行事等を中心とした地域との協働《Webページの情報発信をチームで対応。積極的に写真等をアップしていく》
 - ア 体育祭や文化祭などの実行委員会等は、生徒の意見を採り入れ、生徒会・実行委員会等を生徒中心に運営し、主体的な活動に改善
 - イ ボランティアや地域との連携を図る活動の充実（地域に密着した活動や挨拶運動、お掃除ボランティアなど）
 - ウ 体験的な行事、情操教育の啓発を授業作品の展示や生徒会活動、有志の活動など横断的に活性化を図る
 - (2) 3年間を見通したキャリア教育の推進（自己の進路を主体的に決定する力を育てるために、外部人材等と協働し進路実現に繋げる）
 - ア 職業観・勤労観を養い将来の自分の生き方について、1人1台端末のICTを効果的に活用し、オンライン面接等に対応する
 - イ 教科学習を基本に「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」体験的な行事など、あらゆる教育活動を生徒の『**気づきの場**』に繋げる
 - ウ 社会で生きて働く知識・技能を習得、未知の状況に対応できる思考力・判断力・表現力等を育成。ICTを活用し「学びに向かう環境の充実」
 - エ 進路希望に応じ1人2社制への適切な情報を提供し、自己の適性能力を発展させ学びの深化を図る（進路決定率 令和6年度 90%以上）
《令和元年度 78.5%、令和2年度 78.4%、令和3年度 78.2%》
- 3 より良い社会人に向けて、学校生活全般のスクールミッションの確立（-1人1台端末の活用を踏まえ、学びに向かう環境づくりを支援-）
 - (1) 「魅力ある授業」の創造と主体的・対話的な深い学びの実践を充実するため、観点別学習状況評価にICT活用能力を効果的に活用する
 - ア 授業に電子黒板等ICTを活用し「できた。わかった。もっとできる」など観点別学習状況を活かし、がんばっている生徒に対する取組みを奨励
 - イ 「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」体験的な行事などにSDGsの取組みを活用。キャリアプランに結びつく『**実践の場**』の充実・定着
 - ウ 生徒の学びと育ちを支援に繋げ「進級・卒業」の取組みや追認補講等の制度の検証・その機会毎の時期に応じ、全ての内規等の見直しを実施
 - (2) 学校広報活動や研究授業等の充実を図る《中学校訪問を含めた活動を充実、ICT活用の研究授業等で情報モラル向上と個人情報の管理を徹底》
 - ア 様々な授業手法について研鑽し、先駆的に取り組んでいる学校・イベント等の見学を実施。その情報を共有し同僚性を高める
 - (3) 支援学校のセンター的機能を活かし、支援の充実を図り、障がいの有無にかかわらず、すべての生徒の教育的ニーズに応じた支援の充実
 - ア 支援教育コーディネーター・人権推進委員を中心に、人権尊重の視点に踏まえた、教育相談委員会の更なる充実と第2相談室の新設
 - イ 将来の進路を主体的に選択できる情報提供と現場実習等の体験学習を充実させるとともに「個別的教育支援計画」等の作成をチームで対応

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>「学校行事は楽しい」74.9%、「エンパワメントスクールに入学してよかった」の数値が71.1%である。「担任の先生以外に相談できる」の生徒数値が67.9%。いずれも生徒と教職員の粘り強い対話と寄り添う丁寧な所が判る。「学校に行くのが楽しい・努力したことをほめてくれる」の項目において、ともに70%弱の結果に表れたと分析している。</p> <p>今後は、「先生の進路指導はわかりやすい」66.0%、教職員67.9%を機運として、さらに進路決定率に繋げるノウハウを構築するようしていきたい。また、「命の大切さや社会のルールについて、学んでいる」が70.9%となり、18歳成人年齢や、より良い選択ができる社会人にむけてシフトしている所に生徒の成長を感じている。生徒に主体的な行動と深い対話を通じて、学校生活を充実させる仕掛けでオンリーワンをめざしていきたい。（全て改編後の最高値）</p>	<p>第1回：令和4年6月3日（金） 就職決定率は良い。遅刻数の改善で新たな取組を検討する中で、苦情等は、地域の要望に適切に対応する中、PTAも協力する。「エンパワ」を選んで良かったと思う指導重視</p> <p>第2回：令和4年11月4日（金） 授業改善では、ペア・グループ学習無くして深い学びに繋がらないと提言。進路実現、社会貢献を踏まえた自己実現が生きる力となり、キャリア教育に発展させるよう示唆</p> <p>第3回：令和5年1月27日（金） 働き方は校内の一定のルールを決めて遵守することや、人生を自ら切り拓いていくには、選択制を通じ主体性を高めることを大切にしてほしい。また、多様な学びの提供は、授業改革であり、教員の意識改革に力を入れるとともに、「総合的な探究の時間」を活用する中で、国語を元に力を発揮させ、生きる力を出せることが大切にしてほしいと助言があった。最後に、保護者からは「自由があって、楽しい学校」で満足だったと意見があった。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 3年度値]	自己評価
1 学びに向かう環境づくりの充実	<p>(1)生徒相互にとって安全で安心な「学びの場」</p> <p>ア 基本的なコミュニケーション</p> <p>イ 「新しい生活様式」ヤングケアラー等の支援</p> <p>(2)教職員の意識改革と生徒の健康管理</p> <p>ア 生活習慣の確立</p> <p>イ 健康意識の充実と体力づくりの推進</p> <p>(3) 規範意識醸成と生徒のニーズに応じた支援</p> <p>ア 生徒の主体的な対話とルール</p> <p>イ 「ともに学び、ともに育つ」教育推進と通級</p> <p>ウ 教育相談・人権推進委員会の体制 教員研修の発展</p>	<p>(1)生徒相互にとって安全で安心に生活できる場と人間関係の育成・学校環境整備</p> <p>ア・主体的な対話を育むため外部人材等を活用。体験的な学習・行事・環境整備等で育成</p> <p>イ・コロナ禍の状況に応じた体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員研修の実施 1/年 ・横断的に各種委員会等を通じ、学校三師の連携や示唆で適切な支援を随時開催 <p>(2)学び続ける教職員と働き方改革等への取組み</p> <p>ア・「あいさつ運動」と健康チェック</p> <p>イ・健康診断で尿検査の受診率を維持</p> <p>感染防止対策を含め、食育等の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業医等との連携や助言を活用 <p>(3) 規範意識醸成と個々の生徒への支援体制</p> <p>ア・規範意識の醸成をめざして生徒・教職員との対話を重視、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、弾力的なルール等の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者懇談など通じ連携を深め、寄り添い、粘り強く、支え合う指導 <p>イ・「ともに学び、ともに育つ」教育と交流及び共同学習の充実</p> <p>ウ・教育相談・人権委員会等とSC/SSW/CCの連携をさらに深め研修を充実。また、進路選択の際に自他の権利と基本的姿勢を実践</p>	<p>(1)安心の場を増室する居場所創り検討</p> <p>老朽施設改修</p> <p>ア・コグトレ・SC/SSWの活用[50回]</p> <p>イ・コロナ禍の状況に応じた体制の構築と学びの保障等の体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤングケアラー等の支援 <p>・保健委員会等との学校三師の連携 [1回/年]</p> <p>(2)働き方改革等で全校一斉退勤 在校時間管理は産業医との連携で改善</p> <p>ア・生活習慣確立(感染防止対策中心)</p> <p>イ・受診率維持 [99.1%]と食育等への関心・実習等を学期毎に1回</p> <p>(3)規範意識醸成と個々の生徒への支援体制会議を学期毎に1回</p> <p>ア・懲戒件数の減少と弾力的なルール等の活用 [129件]</p> <p>・のべ欠席日数の減少 [10407日]</p> <p>・遅刻数の減少 [20149人]</p> <p>イ・支援教育等の研修 [3回/年]</p> <p>ウ・ケース会議充実と外部人材の組織体制の活用 [17回]</p> <p>校内研修や伝達講習 [1回/年]</p> <p>人権教育の成果を継承 [1回/年]</p>	<p>(1)安心の場を増室する居場所創り 新教育相談室(通級教室)の新設(◎)</p> <p>ア・コグトレ・SC/SSWの活用 [67回](○)</p> <p>イ・感染対策と学びの保障等は学習支援クラウドサービスの活用(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤングケアラーは教育相談で対応(○) ・保健委員会等と学校三師の連携(○) <p>(2)働き方改革等で全校一斉退勤はコロナ禍の影響で業務増となり未改善(△)</p> <p>ア・生活習慣確立(感染防止対策中心)</p> <p>イ・受診率維持 [97%](○)</p> <p>食育の調理実習はコロナ対策で未実施</p> <p>(3)規範意識醸成と個々の生徒への支援体制会議は9回実施(○)</p> <p>ア・懲戒件数の減少と弾力的なルール等の活用 [44件](◎)</p> <p>・のべ欠席日数 [10730日](○)</p> <p>・遅刻数の減少 [21005人](○)</p> <p>イ・支援教育(通級)等の研修 [3回/年](○)</p> <p>ウ・ケース会議充実と外部人材の組織体制の活用 [18回](○)</p> <p>校内研修や伝達講習[1回/年](○)</p> <p>人権教育の成果を継承[1回/年](○)</p>
2 自己肯定感の育成とキャリア教育の充実	<p>(1)生徒会活動・部活動地域との協働</p> <p>ア 体育祭文化祭の主体的な活動</p> <p>イ ボランティア活動の充実</p> <p>ウ 体験的行事・情操教育</p> <p>(2)3年間のキャリア教育の推進</p> <p>ア 職業観・勤労観と1人1台端末</p> <p>イ 生徒の「気づきの場」の機会</p> <p>ウ 未知の状況に対応できる判断力等、学びに向かう環境の充実</p> <p>エ 進路希望に応じた情報、自己の能力発見・学びの深化</p>	<p>(1)生徒会活動・行事等を中心に地域と協働</p> <p>ア・体育祭・文化祭の生徒会役員の当日の運営や準備期間で、教員と協力しながら活躍の機会を増やす。行事日等をコロナ禍に対応</p> <p>イ・ボランティアや地域との連携</p> <p>ウ・生徒会と協力し、部活動や体験入部に取組み、体験を通して、芸術等で作品展示を常設し、情操教育の充実を図る</p> <p>(2)3年間を見通したキャリア教育の推進</p> <p>ア・地元企業と協力やキャリアコーディネーターの外部人材の活用し、1人2社制受験への対応</p> <p>イ・外部講師によるガイダンスや講演を活用し自己の進路に対する啓発を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得への参加を促し、進路に向けた動機付けを行う <p>ウ・コミュニケーション力・キャリア意識を促す情報編集力の育成</p> <p>エ・場面に応じた適切な言葉を選択できるよう、寄り添い、粘り強く面接指導・プレゼンの発表機会の充実にソーシャルスキルトレーニング(SST)を活用する</p>	<p>(1)生徒会活動、行事等で地域と協働</p> <p>ア・学校教育自己診断の「文化祭・体育祭等学校行事は楽しい」の向上 [生徒 68.2%] [教職員 68.9%]</p> <p>イ・地域等の交流 1回/年 (地域小中学校等の連携を含む)</p> <p>ウ・年間を通じて工業作品、芸術、家庭科等の作品展示を実施</p> <p>(2)3年間を見通したキャリア教育推進</p> <p>ア・外部人材等との学年団等の連携をオンライン面接を含め実施 [154回]</p> <p>イ・学校斡旋就職希望者の合格率維持 [89.5%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得者の維持 [21人] <p>ウ・1人1台端末を活用し、情報編集力のためWeb会議システムを構築</p> <p>エ・就職面接練習参加率 [100%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路決定率 [78.2%] ・プレゼン活用したコミュニケーション力のアップを随時実施[4回] 	<p>(1)生徒会活動、行事等で地域と協働</p> <p>ア・学校教育自己診断の「文化祭・体育祭等学校行事は楽しい」の向上 [生徒 74.9%] [教職員 67.9%](○)</p> <p>イ・地域等の交流 1回/年(○)</p> <p>保育所の遊具修繕作業を実施</p> <p>ウ・年間を通じて工業作品、芸術、家庭科等の作品展示は文化祭展示。書道は加えて芸文祭に入選等あり(◎)</p> <p>(2)3年間を見通したキャリア教育推進</p> <p>ア・外部人材等との学年団等の連携をオンライン面接を含め実施 [187回](○)</p> <p>イ・学校斡旋就職希望者の合格率維持 [80%](○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得者の維持[32人](◎) <p>ウ・1人1台端末を活用しWeb会議システムは、対面授業等に応じ延期(△)</p> <p>エ・就職面接練習参加率 [100%](○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路決定率 [83.9%](○) ・プレゼン活用したコミュニケーション力のアップを実施 [4回](○)

府立和泉総合高等学校

<p>3 より良い社会人に向けて、 学校生活全般のスクール ミッションの確立</p>	<p>(1)「魅力ある授業」の創造と主体的・対話的な深い学びの実践 ア「できた。わかった。もっとできる」がんばった生徒奨励 イSDGsの取組みと「実践の場」充実</p> <p>(2)学校広報活動や研究授業の充実 ア 授業手法研鑽、先駆的な学校・同僚性の向上</p> <p>(3)支援学校のセンター的機能と教育的ニーズ ア 教育相談委員会の充実、第2相談室 イ「個別の教育支援計画」の活用</p>	<p>(1)観点別学習状況評価にICTを効果的に取り入れ、主体的・対話的な深い、確かな学力の育成と授業改善に繋げる ア・授業に指導と評価の一体化が判るように具体例を示し、実践を通じ同僚性を高める 定期考査の再考と観点別学習評価等の検証 がんばった生徒奨励の機会の実践 イ・体験的な行事などにSDGsの取組みを活用。 キャリアプラン結びつく「実践の場」の充実・定着や各部各系列等の展示発表に取り組む ウ 生徒の学びと支援し、自己肯定感の醸成</p> <p>(2)学校の広報活動としてWebページの充実発展 ア・教員相互が授業等に関する意見交換で同僚性のアップ ・ICT活用を1人1台端末の対応し、学びの深化にグループウェアと学習支援クラウドサービスの活用定着</p> <p>(3) 支援学校のセンター的機能と教育的ニーズに応じた支援の充実 ア・支援コーディネーター、人権推進委員の連携した組織の取組み。第2相談室の検討 イ・現場実習等の体験学習の充実と「個別の教育支援計画」の活用</p>	<p>(1) 観点別学習状況評価にICTを効果的に活用し、確かな学力の育成と授業改善 ア・指導と評価の一体化の授業実践に合致した研究授業と協議を2回/年 生徒奨励の機会を校内独自に設置</p> <p>イ・体験的な行事などにSDGsの取組みを活かし、「実践の場」の定着 ・学校教育自己診断の「学校が楽しい」で満足度を図る [58.2 %] ウ・1年次の進級者数向上 [170人/206人 進級81.1%]</p> <p>(2) 学校広報活動、Webページの発展 ア 授業手法研鑽、学校・イベントの見学情報の共有で同僚性を高める ・自己診断の「エンパワメントスクールに来てよかった」2%増 [66.7%] ・グループウェアの校内活用 [6回/年] ・学習支援クラウドサービス定着</p> <p>(3) 支援学校のセンター的機能と教育的ニーズ ア・地域の支援学校との連携2回/年 校内委員会等での学習会1回/年 ・第2相談室の検討 イ・現場実習等の体験学習の充実 2人～3人/年 ・「個別の教育支援計画」の作成活用</p>	<p>(1) 観点別学習状況評価にICTを効果的に活用し授業改善として、首席・10年 研修者が研究授業を実施 [2回](○)</p> <p>ア・指導と評価の一体化の授業実践に合致した研究授業と協議[10回](◎) 生徒奨励の機会を校内独自に設置 (○)</p> <p>イ・体験的な行事などにSDGsの取組みを活かし「実践の場」として、プレゼン発表を4回実施 (○) ・学校教育自己診断「学校が楽しい」で満足度を図る [64.9 %] (○) ウ・1年次の進級者数向上 [177人/213人 進級83.1%] (○)</p> <p>(2) 学校広報活動、Webページの発展 ア 授業手法研鑽、学校・イベントの見学情報の共有で同僚性を高める ・自己診断の「エンパワメントスクールに来てよかった」[71.1%] (◎) ・グループウェアの校内活用は、職員会議等・研修等で活用 [8回/年] (○) ・学習支援クラウドサービス定着 職員朝礼等の内容を発信 [64回] (◎)</p> <p>(3) 支援学校のセンター的機能と教育的ニーズ ア・地域の支援学校と連携[17回] (◎) 校内委員会等での学習会 [5回] (○) ・第2相談室として通級の教室 (◎) イ・現場実習等の体験学習の充実 [4人] (○) ・「個別の教育支援計画」の作成活用 [5人] (○)</p>
--	---	---	--	--